



鈴木隆議員

質問①

小中学校の熱中症対策について

今年度の異常ともいえる暑さ対策として教室・職員室・保健室等にエアコンの設置は必要であると考えるが設置の考えはありますか。

現在長期休業は夏25日以内、冬25日以内、合わせて50日以内としております。

が、50日の範囲で夏・冬の日数を変更・調整することを検討しております。体育の授業については、状況によって屋外での活動を避けたり、気温の高くならない時間帯に変更する等の対処は可能であります。部活動については時間の短縮や活動中止の処置をすでに行っているところです。

質問②

町内の公共施設の熱中症対策について

役場庁舎・保健センター・図書館他関連施設の熱中症対策の現状はどうなっているか。

各施設にはエアコンの設置はされておりません。ただ図書館には視聴覚室に設置されており、そこを閲覧室として開放して対応しました。

住民の熱中症から逃れる待機場所の確保という

意味でも公共施設のエアコン設置は必要と思われるがいかがですか。

質問③

町内のヒグマ対策について

ここ数年の駆除件数、又は目撃情報は年間どのくらいあるのか。生息数は把握していますか。

駆除件数は令和2年度3頭、令和3年度3頭、令和4年度3頭、令和5年度0頭。目撃情報は令和2年度18件、令和3年度39件、令和4年度13件、令和5年度26件。生息数は全道で11,700頭。そのうち日高・夕張地域は4,260頭となっております。

町民に対するヒグマの啓蒙活動はしていますか。

広報により、ヒグマの注意喚起と出没情報を掲載している。

地域の見回り活動も重要であると思われるが実施状況はどうですか。

見回り活動は行っておりません。住宅との距離が近い場合は、近辺の居住者への周知や警察官によるパトロールを実施している。

ヒグマに関わる職員に対する知識・学習も必要であり、専門の部署の設置の立ち上げは検討していますか。

日高振興局に専門職員が配置されているので今まで以上にヒグマ対策の研修会等に担当者を参加させ知識を深めて、対応をしていきたい。

質問④

町内の公共施設における太陽光発電システムの設置について

現状の設置状況はどうなっていますか。またこれから次年度以降の設置予定はどうなっていますか。

役場庁舎に災害時における電力確保のために平成25年に庁舎屋上に太陽光パネル96枚を設置している。また次年度以降の設置予定はありません。

温暖化、省エネルギー対策としても将来に向けて必要な事業であると考えているかがありますか。

CO2削減による温暖化対策に加え、昨今のエネルギー価格上昇の財政負担を考えたとき、それらへの対応策として有効であり、検討は必要と考えております。



橋爪伸恵議員

質問①

産業振興における水稲・畑作等の現状と今後の対策について

水稲生産者の現在の戸数と今後の見通しについて。

生産者戸数は7戸、作付面積は23.1ヘクタール。生産者が高齢化しており、作業の効率化等対応が必要である。

遊休農地の現状と今後の取り組みについて。

遊休農地は岡田、田代、平宇地区に約50ヘクタールあるが、再生が難しい、もしくは山奥にあるというのが現状である。

イチゴ以外の施設園芸作物の導入の可能性は。アスパラガスを奨励しているが、複合経営でない

いと収支のバランスが合わず難しい。

基幹作物となったイチゴは、今年暑さで生産量が激減したと聞いている。今後の対策と支援については。

全体の生産量は前年の約80パーセントとなっている。暑さ対策として、遮光してハウス内の温度上昇を抑えるため、ビニールを張り替える等の方法があり、ハウス自体に対する一部補助が考えられる。また今年度より段階的に引き上げられている選果料の一部補助、及び苗購入費の補助率の引き上げも考えられる。

前年比80パーセントと言いますが、今年は経費の方が多く収益が出ない、廃業も考えているという個別の声がある。町はどこまで情報を得ており、どう捉えているかお聞きしたい。

情報は農協からもらう。毎月の出荷トン数と金額の累計額を参考にしている。数字は把握していても農家さんとの情報交換が

農家さんとの情報交換が



雨で被害のあったハウスも

なされていないのではないかと。当初は、野菜振興会との会合等、協力し合っていたようだが、そういうことも少なくなっていないか。

農家さんの所へ顔出ししないということについては申し訳なく思っている。野菜振興会や農協との会議がある時は、案内を頂くので出席はしている。

暑さ対策について、農家さんたちと実際話をされているか。

ビニールについての対策は、日高農業改良普及センターから情報を頂いている。確立された状況ではないため、まだ話し合いはしていない。

町民に対するヒグマの啓蒙活動はしていますか。

広報により、ヒグマの注意喚起と出没情報を掲載している。

地域の見回り活動も重要であると思われるが実施状況はどうですか。

見回り活動は行っておりません。住宅との距離が近い場合は、近辺の居住者への周知や警察官によるパトロールを実施している。

ヒグマに関わる職員に対する知識・学習も必要であり、専門の部署の設置の立ち上げは検討していますか。

日高振興局に専門職員が配置されているので今まで以上にヒグマ対策の研修会等に担当者を参加させ知識を深めて、対応をしていきたい。

役所等で得ている情報が当事者と共有されていない状況と見受けられる。類似町農業担い手育成協議会が新規就農者を募集した際の計画に、5年後の独立があるが、ほとんどの従事者が独立せずにいる。これについてはどうお考えか。

資材の高騰によるハウスの建設費、農地取得や水の問題等により独立できなかったものと思われる。

計画書の中には、5年後の独立の際の、国、農協、町からの補助金について明確な説明があったが、実際はその通りではなかったと聞いている。

町の施設園芸ハウス設置等助成事業のハウス設置に係る2分の1の補助は現在も残っている。

類似町には実質イチゴ以外に畑作がない中、地域おこし協力隊として来町、定住された方々も、今打撃を受けている。この事業を立ち

上げた際に実際携わっていらした町長に、この事業の今後についてお聞きしたい。

5年後の独立を目指して体制を組んでいたが、農協が大変な状況になった。町だけでということにはならないので、約束したことを守るため、農協に出向き、新しい組合長とも話している。高温対策も対応が後手に回っていた。農家の方々と情報交換し、状況をしっかり把握した上で、実績に向けて取り組んでいきたいと思っている。

現在、新規就農者は募集しているか。

ハウスが空いておらず選果場がいっぱいで裁ききれないという現状のため、現在募集はしていない。

それは、現状維持でよいということか。

新規就農の方をあきらめてはいるわけではない。担当者の農業フェアの参加など、準備はしている。問題を解決し、しっかり取り組んでいきたいという思いでいる。